

募集中心農委だよりコンクール

全国農業会議所が実施する「第32回農業委員会だよりコンクール」に基づき、農業会議は募集を行っている。

コンクールは、農委だよりや市町村広報を活用して地域に密着した情報提供活動を行うことで、担い手や地域の声の集約や農地利用の最適化を推進する農委を表彰するもの。大阪で開催する選考委員会を経て、全国農

業會議所で審査が行われる。

選考では広報活動に伴う効果
レイアウトの工夫、記事の読み
やすさなどを採点。また情報の
公表の観点から、お知らせや活
動報告の掲載は必須事項として
いる。応募する農委は10月3日
までに農業会議に申し込む。

昨年度は高槻市、河内長野市、寝屋川市、堺市の4市農委から応募があり、大阪府代表として

「河内長野市農業委員会だより『あぐりん』」を推薦。全国農業新聞賞を受賞した。

同紙に新規就農者の紹介記事を掲載したところ、「農業を体系的に学びたい」と農業研修講座への応募の問い合わせがあり新規就農者の獲得に繋がった。

推薦に先立って実施された選考委員会では委員・農業者への取材に注力している点、4コマ漫画を掲載して目を引く紙面づくりを行っている点等が高く評価された。

（林佑）

なにわ農業賞受賞者紹介84

時代に適応した農業の実現

富田林市・南 信宏さん

平成30年になにわ農業賞を受賞した南信宏さん（50）は、富田林市佐備でイチゴやナス、キュウリ、トマトなどの生産に取り組んでいる。不耕作地の受け入れや農地の集約化を図った結果、現在では、農園の経営面積は約3・5畝に及

化に取り組んだ。約30年前には、当時先駆けであった直売所「南さんちの野菜果物店」を立ち上げ、朝どれ野菜の販売を開始した。近年ではSNSの活用やメディア紹介によつて来客が更に増加し、リピーターも多い。

ぶ。人材雇用にも力を入れており、雇用就農資金等も活用して雇用体制の整備も進めてきた。

主力作目のひとつであるイチゴは、近年「恋みのり」や「ほしうらら」といった品種に転換。6次産業化にも積極

若くして父から経営を引き継ぎ、規模拡大や経営の多角

ド名を冠したイチゴジャムの販売も予定している。

「美味しい農産物づくりの要は土づくり」と語る南さんは、富田林市土壤改良研究会に所属し、土壤改良にも取り組む。地域ブランド米「東條ほんわか米」の生産部会長として自らも生産するほか、ＪＡ大阪南イチゴ部会長、東條地区農業活性化協議会役員なども歴任。同市の農家らで運営する「富田林市きらめき農業塾」の实地研修の受入れも行うなど、地域農業の振興に尽力している。

新技術も積極的に活用し、
温度・湿度・CO₂・照度な

どを管理する環境制御システムを導入しているほか、3年前からは大型ドローンを導入した防除も実施。高齢の農家からの散布依頼も受けている。

今後については、「温暖化が急速に進む中、従来通りの手法で収量や品質が変化なく生産するのは難しくなってきた。環境変化への適応を模索している段階」と話す。

(沼田)



旬の大阪なすのハウスで

[illegible]